〔史跡の活用事例〕

「鹿屋高等学校の野外実習の取組」

１．学校名	鹿児島県立鹿屋高等学校
２．学年・人数	１年生　２３９名
３．日時・場所	（１）日時・場所 令和６年１２月１３日（金） １　大隅半島についての全体講義（地歴・理科） ２　訪問場所の事前調査 ３　訪問・まとめ（塚崎古墳群・塚崎のクス・肝付町立歴史民俗資料館・横瀬古墳）
４．活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について	（１）名称・時代 ・塚崎古墳群（４～５世紀，古墳時代），横瀬古墳（５世紀，古墳時代） （２）特徴 塚崎古墳群は４～５世紀に大隅地域で最初に古墳が造られた。埴輪や大阪や奈良などでつくられていたものと同じ形の土器が見つかっている。また，大阪産や愛媛産の須恵器が発見されており，塚崎古墳群を造った人々が，いろいろな地域と交流していたことを示す。 横瀬古墳は墳長 137ｍで県内２位の規模を誇る前方後円墳である。大量の円筒埴輪片や形象埴輪片が出土している。ヤマト政権と深いつながりを持ち，大陸～南西諸島～近畿地方を結ぶ広域交流の拠点を掌握していた西日本を代表する首長の墓と推測される。
５．活用の取組において地域との連携や工夫した点等	肝付町立歴史民俗資料館から古墳や大隅半島の歴史について説明をしていただいた。
６．取組の様子（研究発表等）	 歴史民俗資料館の見学 横瀬古墳の見学
７．感想・意見 （参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	【生徒】 ・地域の遺跡を見る機会が今までなかったので，よい経験になり楽しかった。 【教員】 ・高等学校のカリキュラムでは「総合的な探究の時間」以外で郷土学習をする機会を作るのが難しく，大変よい企画である。今後も続けたい。